

## ▼オンボー点滴静注・▼皮下注シリンジ [注]

【重要度】 【一般製剤名】ミリキズマブ（遺伝子組換え） Mirikizumab （Genetical Recombination） 【分類】ヒト化抗ヒトIL-23p19 モノクローナル抗体製剤

【単位】▼300mg/V・▼100mg/皮下注シリンジ・▼200mg/シリンジ

【常用量】

## ■点滴静注

潰瘍性大腸炎：

1回300mgを4週間隔で3回（初回，4週，8週）点滴静注

12週時に効果不十分な場合はさらに1回300mgを4週間隔で3回（12週，16週，20週）投与可

皮下投与用製剤による維持療法中に効果が減弱した場合には，1回300mgを4週間隔で3回点滴静注可

クローン病：

1回900mgを4週間隔で3回（初回，4週，8週）点滴静注

皮下投与用製剤による維持療法中に効果が減弱した場合には，1回900mgを4週間隔で3回点滴静注可

## ■皮下注

点滴静注製剤による導入療法終了4週間後から1回200mg（クローン病は1回300mg）を4週間隔で皮下投与

【用法】点滴静注，維持療法では皮下注

希釈液は生食または5%ブドウ糖（50～250mL）

300mgは30分以上かけて

900mgは90分以上かけて点滴静注

※点滴後フラッシュ要

【透析患者への投与方法】常用量（1）

【保存期CKD患者への投与方法】常用量（1）

【特徴】中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入療法（ステロイド，アザチオプリン等の既存治療で効果不十分な場合に限る）に適用されるバイオ製剤。皮下注製剤にはオートインジェクターが選択可。

【主な副作用・毒性】感染症，過敏反応，肝機能障害（定期的に肝機能検査を行う），皮膚症状など

【安全性に関する情報】膚及び皮膚以外の悪性腫瘍の発現の可能性（1）治療前の結核スクリーニング（1）

【F】36～44% [sc]（1）

【tmax】3～7日 [sc]（1）

【代謝】イムノグロブリンの代謝経路をたどると推測（1）

【排泄】ペプチド及びアミノ酸に分解されて排泄（1）

【CL】0.371L/day [iv]（1）

【t1/2】10日 [iv]（1）

【蛋白結合率】該当しない（1）

【Vd】4～5L/body（1）

【MW】約14.7万

【透析性】透析されない（1）

【O/W係数】

【相互作用】生ワクチン接種不可（1）

【肝障害患者への投与方法】

【小児CKD患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】20250515

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。